2010/01/29(金)09:58

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業名称 | 国際関係・交流論［マ3年］ | 授業コード | 3303013 |
| 単位数 | 2.0 | 開講学年 | 3 |
| 授業区分 | 週間授業 | 開講学期 | 後学期 |
| 担当教員 | 川崎 一彦 | | |
| 授業概要 | 北欧を具体的ケースとして取り上げ、その現代社会と経済産業、政策モデルを概観し、日本および北海道のあるべき方向を考えるヒントにして頂くのがこの授業のねらいです。一般的な「国際関係論」とは異なります。授業計画を吟味して受講して下さい。授業内容についてのメールの質問も歓迎します。(kawasaki@tokai-u.jp) | | |
| 到達目標 | 知業時代に最も重要な資質である、創造性と自己効力感の大切さを自覚し、グローカル(Glocal= Think globally, act locally ,グローバルに考え、地域で行動する)に行動する第一歩を踏み出すきっかけにして頂くことが私の希望する到達目標です。 | | |
| 授業計画 | ［講義概要］<br>バブル崩壊以降の日本経済は低迷を続けてきた。1989年から2008年までのGDP(国内総生産)の成長率はOECD(経済協力開発機構)諸国中の最下部に甘んじている。その主因は端的に言うと工業から知業への歴史的変遷に立ち後れていることにあろう。<br>北欧5カ国(スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、アイスランド)は世界でも有数の豊かな福祉国家として知られてきた。また、その背景には強い経済産業の基盤があった。イケア、テトラパック(スウェーデン)、ノキア(フィンランド)、スタットオイル(ノルウェー)、レゴ(デンマーク)などの企業は世界に知られている。<br>スウェーデンやフィンランドなど北欧諸国でも、1990年代はじめにバブルの崩壊とその後の大不況を経験した。しかし、研究開発や教育に重点投資をし、独自の北欧型のサイエンスパークからのベンチャー輩出システムなどが奏功して、知業経済への移行が加速し、90年代後半には世界でも最高水準の経済競争力を復活するに至った。<br>21世紀には人類未踏の高齢社会に突入した日本にとって、福祉生活環境の整備は最も重要で緊急な政策課題の一つである。また、福祉がその「糧」である経済の活力を失うことなく充実されることも大切である。<br>北欧の福祉経済モデルは、アングロサクソン型の市場原理至上主義とは異なり、福祉と経済を両立させる独自の理念に支えられている。21世紀の主要課題である経済活性化、情報化、国際化、少子高齢化、生活・環境重視型社会、男女共同参画、教育などの分野で、これまで日本も含めて世界のお手本になってきた。<br>地勢学的に北方圏に属し、気候、人口規模、国民性が類似する北海道では、日本国内でもとくに北欧との交流が盛んである。近年活発化している北海道の「産業クラスター」創造の動きも北欧をお手本にしている。<br>この講義では北欧を具体的ケースとして取り上げ、変貌する北欧の現代社会と経済産業、北欧の政策モデルについて概観し、新世紀の日本および北海道のあるべき方向を考えるヒントにして頂くのが狙いである。講義ではインターネット先進国である北欧のインターネット情報、ビデオなどビジュアル情報も活用し、北欧の留学生などから直接話しを聞く機会も設けたい。<br><br>［講義計画］(予定)<br>第1回 オリエンテーション、クイズ<br>第2回 北欧と日本<br>第3回 北欧と北海道<br>第4回 ノルウェーの社会と経済 1<br>第5回 ノルウェーの社会と経済 2<br>第6回 デンマークの社会と経済 1<br>第7回 デンマークの社会と経済 2<br>第8回 フィンランドの社会と経済 1<br>第9回 フィンランドの社会と経済 2<br>第10回 アイスランドの社会と経済<br>第11回 スウェーデンの社会と経済 1<br>第12回 スウェーデンの社会と経済 2<br>第13回 スウェーデンの社会と経済 3<br>第14回 総括−21世紀の日本、北海道と北欧<br>第15回 期末テストまたはプレゼンテーション | | |
| 準備学習等 | 明示した「到達目標」を熟慮して資料集の関連部分を読み、ポイントを把握して下さい。 | | |
| 成績評価基準 | 小レポート8回(55点)、期末テストまたはプレゼン(45点)で評価の予定。 | | |
| 注意事項 | Interactiveな授業をめざし、小レポートの課題が多く、出席も重視されます。<br>10分以上の遅刻は認めません。私語で他の受講者に迷惑になる場合、退室をお願いすることがあります。 | | |
| テキスト | なし | | |
| 参考書 | 『HOPPOKEN (北欧特集号、Vol.150)』、2010<br>『フィンランドを知るための44章』(川崎一彦等),明石書店、2008,<br>『出る杭をのばせ!明日を変える創造性教育』(川崎一彦等),発明協会, 2008,<br>『フィンランドに学ぶ教育と学力』(川崎一彦等),明石書店,2005 | | |
| 備考 | | | |